



豊かな自然環境を大切に 安全とおいしさを求めて

庄内協同ファームだより

2022年 No.189

農事組合法人 庄内協同ファーム

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338

TEL.0235-78-2120 FAX.0235-78-2140

<http://www.shonaifarm.com>



ガスワークを飛び出して、
今日の私は
田んぼ日和。



3年ぶりに開催!!

パルシステム埼玉『田植え交流会』

5月28日29日にパルシステム埼玉より組合員19名、理事・職員5名の方々が庄内に来てくださいました。田植え交流会は庄内産直ネットワークが主体となり、関係者の農家さんや庄内たがわ農協の職員の方、庄内協同ファームの組合員や職員が、パルシステム埼玉の皆さんと共に山形を代表する品種『つや姫』の苗の田植えをしました。コロナ禍でパルシステム埼玉の皆さんに現地へお越しただいての交流会は、3年ぶりのためお会いすることができて、感動もひとしおでした。

今回使用する田んぼは、弊社組合員の五十嵐良一さんから準備をしていただきました。まず始めに、代掻きをした田んぼの上に昔ながらの農具『田形（たがた）』を転がしながら、苗を植える場所に印をつけていきます。小さくちぎった苗を片手に裸足や靴下で直接田んぼの中に入って苗を植えていきました。大人



や子供が泥だらけになりながら楽しみ、田んぼには笑顔と歓声が溢れました。夜には懇親会、翌日はわらび採り体験と庄内を満喫していただきました。これから、五十嵐さんより大切に育てていただき、秋にはまた稲刈り交流会でお会いできる日を楽しみにしていきます。



ファーム商品紹介

夏の味覚・定番

★有機栽培だだちゃ豆

だだちゃ豆は茹でたときの芳醇な香り、食べたときの甘みとコクの強さが際立つ枝豆。有機栽培で育てた自慢のだだちゃ豆は夏限定の取扱いとなります。

★むぎちゃん

化学農薬を使用せずに栽培した山形県庄内産の大麦を100%使用。低温焙煎によりきれいな琥珀色をした、香り高く甘いのが特徴的な麦茶。通年お買い求めいただけます。



山形の郷土料理レシピ

だだちゃ豆のおむすび

『だだちゃ』とは、庄内地方の方言で『お父さん』のこと。その昔、枝豆大好きな庄内藩のお殿様が毎日枝豆を献上させては、『今日はどのだだちゃ（お父さん）が作った枝豆だ?』と訊ねたことから『だだちゃ豆』と呼ばれるようになったという説が有名。

＜レシピ＞

- ① たつぷりのお湯を沸かし、良く洗っただだちゃ豆を入れて煮る。
- ② 鞘の口が少しだけ開いて、中の豆が見えるものがチラホラ出てきたら、湯切りをしてざるに上げて冷ます。※色よく仕上げたい時は氷水で一気に冷やす。旨味を残したい時は水に入れずに扇風機などで冷ます。
- ③ 鞘から豆を弾き、適量の塩を豆にまぶしてからご飯に加えてよく混ぜ、おむすびを握る。



変わらぬ安心を届けるために、 変化し続ける庄内協同ファーム

農事組合法人である庄内協同ファームが、今期から今野裕之代表を中心に、初めて農業生産事業をスタートさせました。法人として生産に乗り出す事になったきっかけ、ファーム内や地域の中の課題など背景を教えてください。

今野代表

現状のまだと庄内協同ファーム（以下ファームとする）は5、10年後には存続が厳しくなるのではないかと私自身は感じ、ファームを存続させたいという思いから生産事業の提案をしました。農地受託事業、農作業受託事業を想定、ファームにとっては人（職員や組合員）と農産物を増やす事業になります。今回はその第一歩として庄内町立谷沢地区の農地を受託、大麦とササニシキを栽培しています。

実際の農作業は、今野代表が担っておられる訳ですが、普段どの様なご苦労があるのか教えてください。

今野代表

組合員や新規就農者にやってもらう予定でしたが、現状は私と職員達と手分けしてやっています。もう除草作業は完全に職員に任せています。

地区の方々の反応はどの様な感じですか？

今野代表

立谷沢地区の就農者も70代の方達が多

く、若手農家は少ない状況です。こちらから話しかければ話してくれるし優しい方が多いです。何よりも草刈りもすぐく丁寧で綺麗な状態、また風景も良い所ですよ。ゆくゆくの話にはなりますが、立谷沢地区だけでなく鶴岡市や三川町でも受託面積の拡大を目指していきたいと思っています。

今後、農業者の減少が待ったなしです。地域の中で生産事業を本格化していく為には、どんな課題があると考えていますか？

今野代表

生産者（組合員や新規就農者、職員など）増加。商品アイテムの増加（OEM商品等の拡大）生産事業アップを目指します。今までファームが目指してきた安心安全な農産物を届けていく方向性は今後ますます求められていくと確信していますが、それを支える生産者の人数が追いついていないのが現状です。これからは、地域の農家にさらに門戸を開きつつ新規就農者を受け入れる体制を整えていく必要があると思います。また、ファーム的には有機栽培を進めていきたいのですが、生産者本人の希望も聞いていきたいと思っています。



普段の仕事…製造

田植作業にしても除草作業にしても体が慣れてくるまでは足腰への負担が大きかった。農家としてご飯を食べていくことの過酷さを実感した。



普段の仕事…営業

普段、体を動かしていないこともあり、体力がなく、田んぼの中を歩くのも一苦労であった。農家の方は自分の仕事なので慣れているが、田植機や除草機のオペレーターをするにもただ単にオペレートしているのではなく、圃場条件によって臨機応変に対応する職人の技を垣間見た。元々実家が農家で幼少期は手伝い等をさせられたものだが、実際田んぼの中で作業をしてみても親の苦労等を実感できたいい機会であった。



普段の仕事…総務

田植機に初めて乗って作業をした。内心ドキドキだったが、やっぱり曲がってしまっ心が痛くなった。田植後、曲がって植えられた苗を見て部長の顔が険しくなっていて面白かった。近所の方たちは私たちが作業をしていると必ずスピードを緩め、眺めながら脇を通っていくため、見られている感があった。



舟越 (左)

阿部 (右)



普段の仕事…経理

田植機を走らせるとマーカーで次に植える所の印をつけていたが、田んぼの水が多くてその印が見えなくて大変だった。二往復したが一往復目は代表が同乗して教えてくれたが、二往復目は一人で操縦したためまっすぐ植えていると思って実際は曲がっていて難しかった。普段何気なく見ていた農作業を自分がすることになるとは思ってもみなかった。苗が綺麗に植えられている圃場を見るたび、感動するようになった。熟年の技を尊敬した。

最後に…

今野代表…私は職員自身が作業をいかに楽しく出来るかを考えています。それに伴い、米作りについて少しでも知ってもらい、販売等に活かしてほしいと思います。



普段の仕事…営業

『田んぼの中を歩くこと』これがシンプルに一番大変だった。田植機にしても除草機にしても一時も目が離せず、油断をするとすぐ曲がる。正直、達成感より疲労感でいっぱいだった。たった数時間の作業だったが、体力消耗、大変さを実感した。改めて組合員さんを尊敬した。



代表理事…今野裕之

職員みんなで田植えを頑張りました。それぞれの感想を聞いてみました。